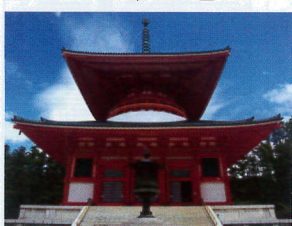


# 高野山御開創1200年

昨年、平成27年は真言宗の宗祖弘法大師が高野山をお開きになってから1200年という大きな節目の年でありました。この御開創1200年にあたり、高野山では4月から5月まで開創大法会が行なわれ、またそれに向けてのイベントも全国各地で数多く行なわれました。

朝日寺では、開創法会に向けた結縁脚としてお大師さまの飛行三鉢杵と高野山奥の院の聖燈が全国を回る中で、**2月3日の節分会**に合わせ、それらをお迎えさせて頂くという勝縁に恵まれました。当日はいつもと一風変わった節分会の雰囲気でした。飛行三鉢は別の名を「撫で三鉢」とも言い、三鉢杵を撫でることによりお大師さまの御利益を頂けるというもので、お参りされた皆さんは客殿の広間に着くや否や、三鉢杵を撫でて身体中に御利益を頂いていました。また、ろうそく祈願では聖燈から灯を頂く形式にさせて頂き、一層ありがたく美しい灯火となりました。そして高野山中門に永代奉納されるという結縁行脚の御芳名も約40名の方にさせて頂きました。ありがとうございました。

4月に開白された大法会では連日様々な法会が高野山内で営まれたわけですが、**5月5日に行なわれた高野山金剛講大法会**には朝日寺の御詠歌組からも御詠歌の奉詠に参加して頂きました。全国より御詠歌道を志されている方が約1300名高野山金堂に集まり一斉に奉詠。その光景、その音色は圧巻でした。またとない機会に良い思い出となられたことと思います。そし



当日はゴールデンウィークの最中であり、お参りの人出はピークだったそうです。高野山へ向かう電車は大都会の通勤ラッシュかと思うぐらいの混雑ぶり、高野山内はバスもなかなか動かないほどの渋滞、どこかの飲食店も長蛇の列で昼食もままならない状態でした。これも良き思い出となることでしょう。

そして**5月28日には朝日寺より高野山へ御開創1200年記念の団体参拝を行ないました**。早朝出発日帰りの強行スケジュールでしたが、皆様の関心も高く70名を超す方に参加して頂きました。特に初めて高野山に参られた方も多くおられ、高野山の雰囲気や街並みを珍しそにご覧になっていく姿が印象的でした。また、高野山には何度もお参りした経験のある方にとっても1200年の記念の年にお参りできるありがたさを口にされている方も数多くおられましたし、何より多くの檀家の方と一緒に高野山をお参り出来て大変良い1日になりました。

なお、その中でもご説明させて頂きました、この御開創1200年記念事業には全国各寺院に賦課金が求められており、朝日寺からは約160万円の賦課金を以前らせて頂きました。また、駐車場等5か年計画寄付金の中から拠出させて頂いており、この中から拠出させて頂いておられます。

## 高野山御開創 千二百年によせて

山口 山田真加 祢

新年あけましておめでとうございませう。皆様お揃いで良いお年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

一昨年の四月五日には朝日寺で、三十三年に一度の薬師如来御開帳が行われ、優しいお顔の御本尊様を拝ませていただきました。

私も御詠歌隊の一員として御詠歌をお唱えし有難い経験をさせて頂きました。

そして昨年平成二十七年は高野山がお大師様により開かれて千二百年という記念すべき年でした。御開創千二百年の記念プログラムとして、お大師様の飛行三鉢と不滅の「聖燈」が二月三日の節分会にあわせ結縁行脚として朝日寺へ回って来ました。皆さん心をこめ願いが叶うよう、又私も報恩謝徳を願ひ三鉢に手を触れさせて頂きました。また昨年の節分会では特別に、「御開創千二百年和讃」を御詠歌組の皆様でお唱えしました。

そして萌黄色の一層濃くなった五月五日高野山の大法会に御詠歌をお唱えする為お参りしました。標高八百二十メートルの高野山のひんやりとした風の中、にこやかに笑っている「こうやくん」に迎えられ、青空のもと緋のみみじ萌黄色のみみじの美しいトンネル、そして天保十四年に焼失し平成二十七年に百七十二年ぶりに再建された中門をくぐり会場の金堂へと。御詠歌の流れる中、厳かに導師・脇導師様ほか五十名が入堂されました。

奉詠の鈴の音が堂いっばいに響きわたり、それに合わせ奉詠舞が行われ舞扇の流れるような動きに感動しました。張りつめた空気の中、千三百人の参加者、約一時間で無事終わりました。

金堂では五色の幕の張られた中、本尊の薬師如来様を拜ませてもらった五智如来様に照らされ守られ、導いて頂いて御力を頂いた思い出でした。

金剛峯寺・奥の院で御朱印をして頂き、高野山大学黎明館で行われた御詠歌のコンサートを聞かせて頂きました。澄んだ声での大合唱は会場いっばいに響きわたり今でも耳に残っています。高野の町にこれ程多くの人が集まるのもお大師様の大誓願「虚空尽き・衆生尽き・涅槃尽きなば我が願ひも尽きん」と皆を救うため高野山を開かれた賜物と思われ

ます。

長蛇の列のバス・ケーブル・電車を乗り継ぎ、通天閣の上に丸く輝く月を眺め深夜十二時岡山着。慌ただしくも充実したそして楽しいお大師さまのみめぐみを頂いた一日でした。

南無大師遍照金剛 合掌

緑き高野の山に御詠歌を唱える声のひびきわたらむ

ご開創千二百年の大法会

高野の町は人であふるる



## 高野山を参拝して

庄田 武久 和史

昨年五月二十八日に朝日寺からの参拝団の一員として真言密教の聖地高野山をお参りさせて頂きました。



高野山はもうかれこれ三十年ほど前、仕事仲間との旅行の際に通った経験があるだけで当時の高野山の記憶もだいぶ薄れていました。昨年は御開創千二百年ということでテレビなどで高野山を目にする機会も多くなり、又、二〇〇四年に世界遺産登録されたこともあり、我々真言宗の総本山に私も興味も湧き、初めて純粹にお参りできる良い機会としての参拝でした。そして次の御開創法会には私も年齢的に後がなく、これを逃すわけにはいかないという思いで

迎えた当日、早朝に朝日寺を出発して良い天気にも恵まれて順調に高速道路を快走して高野山のふもと、岩出の道の駅で休憩。そこからはさすが八百メートルの山上に登るべく、民家もほとんどない山中の道をひたすら曲がりくねりながらバスは進みました。初めてに近い私には「まだ続くのか」と疲れるほどでしたが、しばらくして高野山霊域の入口を示す高さ二十五メートルの大門が目に見え、飛び込んで来ました。これがテレビで見た大門かと思ふ間もなく、大門を通り過ぎるとこれまでの車窓がウソのような別世界で、人口三三四八人、役場から小中学校、高校大学ま

であるという、まさに天空の町でした。さらに、大きなお寺が幾つも立ち並ぶ街並み、一際目を引くそびえ立つ根本大塔、奥の院への参道、テレビで見ると実物で見るとやはり迫力が違うもので、特にズラリと並んだ樹齢四〇〇年におよぶ巨大な杉木立、歴史的人物の大きなお墓や空海を慕う人々の二十万を超えると言われている供養塔が立ち並んだ奥の院参道は神々しくかつ圧巻でした。それとともに弘法大師がいかに偉大であるか、その歴史もよく分かる気も致しました。

歩き進んで辿り着いた、弘法大師の鎮座される奥の院では我々も納経をさせて頂きましたが、平日にも関わらず周りには同じくたくさんの方、老若男女問わず個人でお参りの方、神妙に手を合わせる外国人、いっばいになったお線香やろうそくに、長き時を経ても変わらず大勢の人がお大師さまにすがり、お参りされていることに驚かされると共に感動致しました。

再び大門を後に、高野山を下りました。それにしても周りにほぼ何もない山深いところにあれだけの天空のミラクルワールド、高野山という場所があるということには千二百年前の弘法大師の思い、そして千二百年変わらず多くの人によって維持され、常に大勢の人がお参りされている聖域であることを再認識致しました。

皆さんの檀家の方とともに大変有意義な参拝の日でした。

最後に、弘法大師空海の残した言葉のひとつを紹介いたします。

あなたの心が暗闇であれば、出会うものはことごとく禍となります。あなたの眼が明るく開かれていれば、出会うものはすべて宝となります。正しい道は遠くにあるものではありません。あなたの心ひとつで目の前に開かれるのです。

南無大師遍照金剛 合掌